

日本の半数以上がスポーツファン、1位プロ野球 2位プロサッカーリーグ 県民別のNo.1は男女ともに“広島県” ～10万人調査による「スポーツ・サステナビリティ白書 2022」Vol.1～

DPV576（PHT 繊維含有成分）を活用したウェアを開発、製造、販売する株式会社ベネクス（所在地：神奈川県厚木市、代表取締役：中村 太一、以下、当社）は、リカバリー（攻めの休養）ノウハウの提供により、社会のスポーツ寿命の延伸によるスポーツ業界の発展を目指す、スポーツ・サステナビリティ支援事業を開始しています。今回は、一般社団法人日本リカバリー協会（事務局：神奈川県厚木市、代表理事：片野秀樹）の技術協力のもと、全国の男女、20～79歳 10万人（「ココロの体力測定」）調査データから、スポーツ業界の持続的発展「スポーツ・サステナビリティ」に関する研究結果の情報提供を受け、「スポーツ・サステナビリティ白書」を作成し、情報を発信します。

■「スポーツ・サステナビリティ白書」とは

全国の男女、20～79歳 10万人（「ココロの体力測定」）調査データから、スポーツ行動頻度、スポーツ観戦・応援頻度、スポーツ各種行動および健康作りの3要素の分析を行い、スポーツと健康増進、健康投資の環境や休養・抗疲労ソリューションの状況をまとめています。また、各スポーツファンを都道府県（もしくは市区町村）のエリアデータで分析を行い、主に、地方自治体やスポーツチームへのマーケティングデータとしてご活用いただいています。

調査データ詳細掲載（リカバリーサイエンスラボ）：<https://recovery-science.jp/>

【調査サマリー】

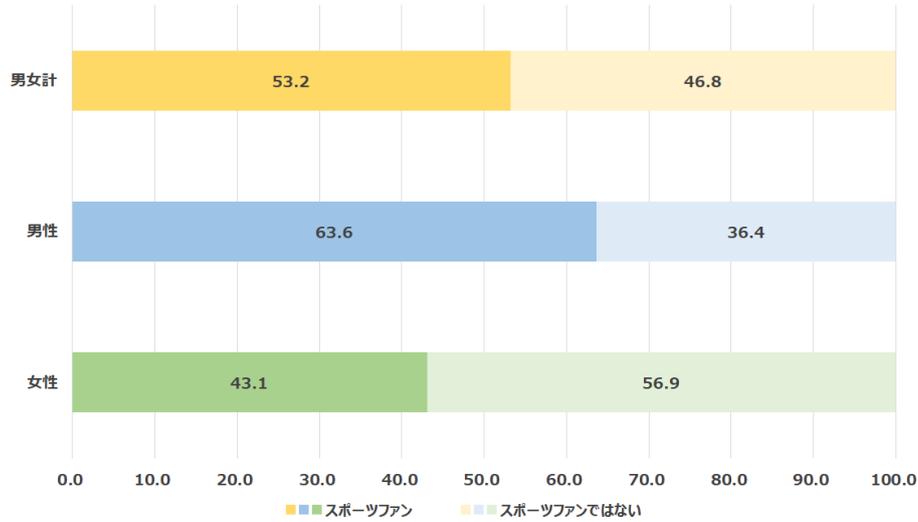
- ◇スポーツファンは全体で53.2%。男性が63.6%、女性が43.1%
- ◇スポーツファンの休養時間満足度は、ファン以外の方の1.25倍。地域や親子で…スポーツファンコミュニティが質の良い休養の場に
- ◇スポーツファン層は、男女ともに70代が最も高い
- ◇男女ともに一番人気はプロ野球、男性2位はプロサッカーリーグ、女性はフィギアスケートが第2位
- ◇都道府県別のスポーツファン率では、男女とも広島県が1位
- ◇スポーツのイメージ、「かっこよい」スポーツはラグビーが1位

■日本のスポーツ好きは53.2%。2022年は世界的なスポーツ大会イヤーで更なる増加傾向に

寝不足の状態、疲労を抱えた状態で、充実した生活を送ることはなかなか難しいもの。休養・睡眠は健康を維持していくためにも大切な時間。だからこそベネクスは「休養の質」に着目しています。

2022年は1年を通して、冬のスポーツや水泳、サッカーなど世界的なスポーツイベントが盛りだくさん！今年は何にかとスポーツの話題が増えそうな中、日頃から地域をあげてスポーツチームを応援したり、親子や友人と一緒に楽しんでいたり、世代を問わずスポーツファンのコミュニティに属している方も少なくないはず。本調査結果によると、国内の半数以上の53.2%がスポーツファンという結果に。うち、男性は6割以上、女性が4割以上という結果になりました。

スポーツファン（全国、男女割合） 単位：%



■ スポーツファンの休養時間満足度は、ファン以外の方の 1.25 倍

男性スポーツファンの休養時間の満足度は、42.4%、女性スポーツファンは 46.6%という結果に。ファン以外の方と比較すると男性で 1.25 倍、女性で 1.18 倍ということがわかりました。

休養時間の満足度（全国、男性、スポーツファン有無別） 単位：%、倍

休養時間の満足度		不満足 (0-4点)	どちらでもない (5点)	満足 (6-10点)
男性	スポーツファン	28.5	29.1	42.4
	スポーツファンではない	33.6	32.3	34.0

0.85倍 0.90倍 1.25倍

※ 表枠外の倍率は、スポーツファンファン÷スポーツファンではない（ブルー）

休養時間の満足度（全国、女性、スポーツファン有無別） 単位：%、倍

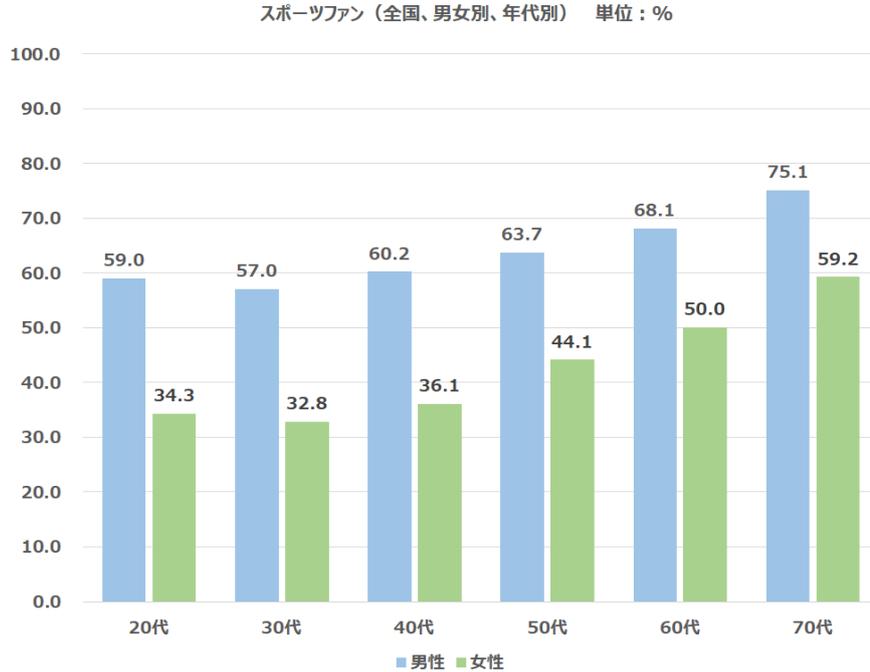
休養時間の満足度		不満足 (0-4点)	どちらでもない (5点)	満足 (6-10点)
女性	スポーツファン	26.3	27.1	46.6
	スポーツファンではない	30.2	30.5	39.3

0.87倍 0.89倍 1.18倍

※ 表枠外の倍率は、スポーツファンファン÷スポーツファンではない（グリーン）

■ スポーツファン層は、男女ともに 70 代が最も高く、30 代が最も低い

スポーツファンを年齢層別に見ると、男女ともに 70 代が最も高く、30 代が最も低い結果となりました。



■ 各スポーツ別ファン率の調査、2 位に約 2 倍の比率をつけて堂々 1 位はプロ野球

各スポーツ別ファン率の調査を行った結果、男女計、また男女それぞれを見ても 2 位に約 2 倍の比率をつけて 1 位を獲得したのが、プロ野球でした。男女計、男性ともに 2 位はプロサッカーリーグ、3 位はサッカー日本代表という結果に。女性 2 位はフィギュアスケート、3 位はプロサッカーリーグという結果になりました。

各スポーツファン（全国、男女割合） 単位：%

男女計			男性			女性		
1	プロ野球	31.1	1	プロ野球	40.6	1	プロ野球	21.8
2	プロサッカーリーグ	15.6	2	プロサッカーリーグ	21.9	2	フィギュアスケート	14.3
3	サッカー日本代表	11.6	3	サッカー日本代表	16.6	3	プロサッカーリーグ	9.5
4	高校野球	9.7	4	高校野球	12.8	4	サッカー日本代表	6.8
5	フィギュアスケート	9.2	5	その他スポーツ	9.6	5	高校野球	6.7
6	大相撲	6.6	6	女子ゴルフ	9.2	6	バレーボール	6.1
7	女子ゴルフ	6.0	7	大相撲	8.5	7	テニス	5.8
8	テニス	5.9	8	ラグビー	6.8	8	卓球	5.4
9	その他スポーツ	5.8	9	男子ゴルフ	6.5	9	大相撲	4.8
10	卓球	5.1	10	テニス	5.9	10	バドミントン	3.1
11	バレーボール	5.0	11	F1	5.4	11	女子ゴルフ	2.9
12	ラグビー	4.6	12	メジャーリーグベースボール	5.4	12	プロバスケットボールリーグ	2.6
13	男子ゴルフ	4.5	13	プロバスケットボールリーグ	5.4	13	ラグビー	2.5
14	プロバスケットボールリーグ	4.0	14	海外サッカーチーム	5.1	14	男子ゴルフ	2.4
15	バドミントン	3.1	15	卓球	4.8	15	その他スポーツ	2.1
16	メジャーリーグベースボール	3.1	16	フィギュアスケート	4.1	16	海外サッカーチーム	0.9
17	F1	3.1	17	バレーボール	3.9	17	メジャーリーグベースボール	0.9
18	海外サッカーチーム	3.0	18	バドミントン	3.1	18	F1	0.7
19	プロサッカー女子リーグ	0.8	19	プロサッカー女子リーグ	1.3	19	プロサッカー女子リーグ	0.4
20	フットサルリーグ	0.7	20	フットサルリーグ	1.1	20	フットサルリーグ	0.2

■スポーツファンが多い都道府県は？ 男女ともに1位は広島県、男性2位宮城県、女性2位北海道

スポーツファンを都道府県別に見ると、1位は男女ともに広島県（男性74.7%、女性62.6%）。次いで男性2位は宮城県69.2%、3位は福岡県68.5%という結果に。また、女性2位は北海道54.6%、3位大分県50.8%という結果になりました。男女ともに1位の広島県は、プロ野球やプロサッカーリーグなど、地域に馴染んだスポーツチーム運営の印象が強く、県内でもしっかりとスポーツファンが根付いているようです。

スポーツファン（全国、男女別、都道府県別） 単位：%

		男性	女性			男性	女性
1	北海道	67.7	54.6	25	滋賀県	61.9	46.3
2	青森県	56.2	37.1	26	京都府	68.0	41.9
3	岩手県	61.7	44.2	27	大阪府	67.0	42.7
4	宮城県	69.2	50.6	28	兵庫県	67.9	44.9
5	秋田県	64.3	50.6	29	奈良県	67.2	41.3
6	山形県	62.0	47.3	30	和歌山県	60.6	39.6
7	福島県	60.8	37.8	31	鳥取県	59.7	40.7
8	茨城県	58.3	38.9	32	島根県	64.8	46.1
9	栃木県	56.9	41.9	33	岡山県	63.6	36.9
10	群馬県	55.4	38.6	34	広島県	74.7	62.6
11	埼玉県	61.5	40.2	35	山口県	66.5	42.7
12	千葉県	62.6	41.2	36	徳島県	65.7	48.0
13	東京都	59.9	38.1	37	香川県	60.8	36.8
14	神奈川県	63.0	40.8	38	愛媛県	63.9	44.6
15	新潟県	59.7	41.4	39	高知県	59.8	44.1
16	富山県	62.4	39.8	40	福岡県	68.5	49.0
17	石川県	58.7	40.5	41	佐賀県	66.5	44.6
18	福井県	57.9	35.1	42	長崎県	66.4	40.6
19	山梨県	66.7	48.3	43	熊本県	61.2	42.3
20	長野県	59.0	40.4	44	大分県	65.9	50.8
21	岐阜県	62.0	39.6	45	宮崎県	60.3	45.5
22	静岡県	63.7	45.6	46	鹿児島県	65.5	42.7
23	愛知県	66.2	43.7	47	沖縄県	65.5	37.4
24	三重県	64.1	41.7				

■ スポーツファンのイメージ調査 「カッコよい」1位はラグビー、総合的に好印象なのはフィギュアスケート

各スポーツのイメージ調査を実施した結果、「カッコよい」1位はラグビーでした。また、「センスがよい/お洒落」などを筆頭に、「好き」「世界基準」「若々しい」「知的」と総合的にフィギュアスケートが好印象という結果となりました。

各スポーツファンカテゴリーイメージ①（全国） 単位：％

	カッコよい	好き	センスがよい /お洒落	日本人に 合っている	男性っぽい	世界基準	若々しい	都会的	知的
野球	17.1	21.2	4.6	22.4	17.8	7.4	5.6	3.6	3.2
サッカー	19.8	12.3	4.7	7.5	15.4	8.6	14.3	7.4	3.1
バスケットボール	20.5	8.4	9.5	6.9	11.3	7.2	16.1	10.2	3.6
水泳	16.2	11.6	5.1	11.3	5.5	20.6	15.4	3.9	3.2
登山・トレッキング	11.5	16.6	6.8	15.8	9.4	8.1	14.3	4.0	7.0
ゴルフ	10.3	11.8	11.5	9.5	8.7	16.5	5.3	8.8	9.7
格闘技	22.7	10.1	4.6	3.7	48.6	7.6	7.0	2.8	2.8
ソフトボール	15.0	11.3	5.3	24.3	5.7	13.3	9.2	2.4	3.2
フィギュアスケート	20.1	16.7	18.1	10.5	2.2	18.4	15.7	7.1	5.9
マラソン	8.1	10.8	3.0	24.0	3.5	14.0	8.9	3.9	3.5
ラグビー	26.1	10.0	3.3	3.8	53.8	9.7	8.8	3.4	3.6
卓球	5.5	13.5	4.3	29.1	2.7	17.7	9.9	2.4	4.6

■ 国民的スポーツ“野球”はいまだ顕在

さらに「親しみがある」「地域・社会貢献」「観戦」等といったカテゴリーイメージを総合的に見ると、圧倒的に野球の比率が高いことがわかりました。また、「地域貢献」「社会貢献」ともに1位の比率をサッカーが占めており、プロサッカーリーグが地域密着で運営していることが認識されていると伺えます。

各スポーツファンカテゴリーイメージ②（全国） 単位：％

	親しみがある	地域貢献	社会に貢献	選手が有名	テレビで観戦	現地で観戦	勝利以外の 楽しみ方が ある	語り合える	ライバル関係が良い
野球	21.2	11.0	9.3	30.7	43.7	15.6	9.5	8.5	11.0
サッカー	11.2	18.9	10.4	20.6	33.6	13.5	8.2	6.3	9.9
バスケットボール	9.2	18.4	9.0	7.7	25.3	11.8	10.2	5.9	9.2
水泳	13.5	4.8	4.1	20.7	32.6	3.9	5.7	5.2	11.0
登山・トレッキング	16.4	6.2	4.7	2.3	4.5	3.2	15.3	10.9	2.6
ゴルフ	10.5	5.2	7.2	22.7	32.7	5.7	10.3	7.2	7.8
格闘技	5.9	2.2	3.0	10.7	24.1	5.5	6.7	5.2	12.0
ソフトボール	14.6	8.3	6.3	13.8	27.5	3.9	5.5	5.0	8.3
フィギュアスケート	10.5	4.1	3.3	31.3	40.3	3.6	12.1	3.5	8.8
マラソン	13.1	8.6	5.4	10.1	44.0	4.6	8.9	4.6	9.2
ラグビー	6.1	5.7	6.1	12.1	27.2	6.8	6.8	5.9	9.2
卓球	21.8	3.2	2.6	28.2	33.0	3.0	6.2	5.4	7.7

【調査概要】

調査名： 「ココロの体力測定 2021」

期間： 2021年11月15日～12月20日

SCR 調査対象： 全国の20～79歳の10万人（男女各5万人）

本調査対象： 1248人（男女各624人）

方法： インターネット調査

SCR 調査項目： 10問、本調査項目：30問

※疲労度合項目：厚生労働省「ストレスチェック」B項目を基に独自加工して、点数化

※休養時間の満足度項目：【休養時間の満足度】を0～10点で回答してもらい、0～4点を不満足、5点をどちらともいえない、6～10点を満足と集計

※集計データ：県・年齢を実際の人口でウェイト修正を行い活用

※スポーツファンの抽出：各スポーツ（20スポーツカテゴリー）ファンの有無の回答者を抽出

【ベネクスについて】

健康のための3大要素「運動」「栄養」「休養」の中で、パフォーマンスを向上させるために必要な「休養」に着目。休養時専用ウェアの開発、製造、販売を行っています。創業は「床ずれ予防マットレス」を開発、販売する介護用品メーカーとしてスタート。現在は、ケアという発想に基づいたリハビリに関わる商品開発を行っています。

「人間が本来持っている自己回復力を最大限に発揮させること」をコンセプトに、東海大学、神奈川県、当社との産学公連携により開発したDPV576（PHT 繊維含有成分）を活用したウェアは、エビデンス（科学的根拠）の取得や安全性を重視した開発を行い、2010年2月の発売以降、疲労回復や安眠のサポートを目的として日本代表選手らスポーツ関係者はじめ多くの方に愛用されています。現在は、豊富な商品展開を行い、全国の主要百貨店やオンラインショップで販売。これまでにシリーズ累計135万着（2022年1月末時点）の販売実績を記録するヒット商品となっています。

DPV576（PHT 繊維含有成分）を活用したウェアは、2013年にドイツで行われた世界最大のスポーツ用品見本市「ISPO」で日本企業初の金賞を受賞。また、2018年9月には、県民の未病改善の促進及び未病産業の市場拡大に向け、未病の見える化や未病の改善に貢献できる信頼性のある優れた商品・サービスを認定する神奈川県の「ME-BYO BRAND（未病ブランド）」にも認定されました。その翌年2019年には、日本健康医療学会から健康医療に役立っている製品を開発、生産、販売する会社、団体等に向けて贈られる「第7回健康医療アワード」を受賞しています。

〈DPV576（PHT 繊維含有成分）を活用したウェアの評価〉

スポーツ：2013年「ISPO」金賞受賞

社会：2018年「ME-BYO BRAND（未病ブランド）」認定

健康：2019年「健康医療アワード」受賞

■ベネクス「休養時専用ウェア」を支える2つのメカニズム

1. 特殊繊維「PHT (Platinum Harmonized Technology) 」

当社独自の先端テクノロジーを駆使し、ナノプラチナなどの鉱物、DPV576 を繊維 1 本 1 本に練りこんで開発したポリエステルの特特殊繊維「PHT」。この「PHT」を使用して作った「休養時専用ウェア」は、休養時の体を優しく包み込み、体力が回復しやすい環境を整え、心身の“休養”をサポートします。

2. 休養時の着心地のよさを追求した仕様とデザイン

体を締め付けないノンコンプレッションデザインでゆったりとした着心地を実現。素材や縫製、カッティングにもこだわり、睡眠中、家でのリラックス時やスポーツ直後、移動中など、あらゆる休養シーンにおいて、ゆったりとした着心地で体に余計なストレスを感じさせない心地よさを追及しています。

【株式会社ベネクス 概要】

法人名： 株式会社ベネクス
代表： 代表取締役 中村 太一
所在地： 〒243-0018 神奈川県厚木市中町 4-4-13 浅岡ビル 4 階
電話： 046-200-9288
設立： 2005 年 9 月 30 日
事業内容： 「休養時専用ウェア（PHT 繊維使用）」の開発、製造、販売
ホームページ： <https://www.venex-j.co.jp/>
リカバリーサイエンスラボ（調査データ詳細掲載）： <https://recovery-science.jp/>

【日本リカバリー協会 概要】

名称： 一般社団法人 日本リカバリー協会
所在地： 神奈川県厚木市中町 4-4-13 浅岡ビル 4 F
会長： 渡辺恭良（理化学研究所生命機能科学センター、大阪市立大学大学院医学研究科 名誉教授）
顧問： 大谷泰夫（神奈川県立保健福祉大学 理事長、元内閣官房参与）
杉田正明（日本体育大学体育学部 教授、日本陸連 科学委員会委員長）
松木秀明（東海大学 名誉教授、健康評価施設査定機構 理事）
代表理事： 片野秀樹 博士（医学）（日本体育大学研究員、Genki Vital Academy 顧問）
提携： ゲンキ・バイタルアカデミー（スイス）
公式 HP： <https://www.recovery.or.jp/>
「毎日をガンバルために、リカバル習慣を。」 <https://recover-bar.jp/>

